

ボランティア連絡会

SUITA すまいる



吹田市ボランティア連絡会ホームページアドレス
https://suitashiboraren26.jimdofree.com



第128号

編集・発行

吹田市社会福祉協議会ボランティアセンター

吹田市ボランティア連絡会

〒564-0072 吹田市出口町19番2号

市立総合福祉会館内

電話 (06) 6339-1210

お知らせ

◆赤い羽根共同募金運動が10月1日から全国一斉に始まります。

「自分の町をよくするしくみ」をテーマに福祉施設や地域福祉活動を行う団体・ボランティア団体などに役立てられる募金として、また、市民の皆さまの優しさや思いやりを届ける運動として今年も始まります(～12/25)

V連絡会も、10月8日(金)江坂駅周辺、10月15日(金)JR吹田駅周辺で街頭募金活動を行います。ご協力よろしくお願ひいたします。

★お問い合わせ 吹田地区募金会
(吹田市社会福祉協議会内)
☎ (06)6339-1254/1205



7月に、線状降水帯の発達で土砂崩れや洪水といった災害が日本各地で発生しました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。



令和3年度役員

コロナ禍を越えて、さあ！動き始めよう

平成30年大阪府北部地震、台風21号災害で多くの皆さんが駆けつけてくださったのは記憶に新しい出来事ですが今回も親身になって活動されていることと幸いです。昨年度に引き続きコロナ感染拡大により緊急事態宣言やまん延防止等重点措置により多くの活動は中止や制限を余儀なくされました。

広めよう 深めよう ボランティア活動 折り鶴で繋がろう！



「ボランティア連絡会 SUITA すまいる」のリニューアルにあたり、初めて役員になった私が担当させていただいていいのかわからないと思いましたが、いつも明るく、楽しく、元氣よく、活動を引っ張って行ってくださる役員さんのために、冊子作成の経験が役立てば...という気持ちでお引き受けすることにしました。

今回のリニューアルの最大の変更点は、色がつくことです！紙面の色も含めて、ロゴの一字一文字に色をつけられます。このコロナ禍、みんなで集まって

「SUITA すまいる」華麗に変身！
「ボランティア連絡会」の作業ができていくことから、LINEを活用して意見を伺ったりもしました。色だけではなく、特に2、3ページが見開きでデザインされているので、変わったなど感じられると思います。

ワクチン接種も進んできたので感染対策をすることで2年ぶりに対面で実施できると期待しています。
＜活動について少し萎えかけたかもしれないモチベーションを鼓舞し合い、仲間と共有することが出来そうですように。＞
吹田市ボランティア連絡会
会長 井本 英子

▼編集後記▲
コロナ禍の中やっと一年ぶりに情報紙128号をお届けできることになりました。先日、久しぶりにあるグループさんのところで軽体操・脳トレの△をさせて頂きました。参加者の方々と共に笑顔となりとても楽しい時間でした。
コロナに注意しつつ前向きに活動していきたいですね。
ボランティアグループ
「花から」 村岡朝子

コミュニティサロン

2か所で開催しています。
☆夢つながり未来館 2階会議室
毎月第1木曜日
午後2時から4時まで
☆総合福祉会館 2階ボランティア室
毎月第2・4火曜日
午後1時から3時まで
切手やプルタブの整理を行っています！

コロナ禍が2年目に入った今年はじめ、医療従事者や施設の職員さんの過酷な状況下での活動に感謝の気持ちを届けたい、少しでも励みになり、癒して頂ければと、千羽鶴作成活動が始まりました。吹田市ボランティア連絡会(以下ボラ連)加入グループ26団体全会員と吹田市社会福祉協議会ボランティアセンター登録グループの心のこもった鶴は2万羽近くにもなりました。

折り紙の4分の1サイズで作った鶴を少人数が何度も集まり色分けをして糸通しをしました。7月に入り、仕上がったものから綺麗に消毒し、リボンを付けラッピングし、病院と私たちボランティア(以下△)がお世話になっている市内の施設に寄贈させていただきました。

お届けできた施設では、「わーっ凄い！こんな綺麗な鶴が千羽も！元氣が出来ます。」と大変喜んで頂きました。

こんにちは！吹田市社会福祉協議会ボランティアセンターです！！

吹田市社協ボランティアセンターでは、「ボランティアをやってみたい」「ボランティアの応援がほしい」の想いをつなげるコーディネートをしています。



現在、センターには91団体と44人が個人で登録し活躍されています。たくさんの方々が、地域でいきいきと活動が進められるよう、また参加してもらえるよう情報発信や講座なども開催しています。

コロナで困難な状況が続きますが、これからも皆さんの活躍の場が少しでも広がるよう頑張ります。

ボランティアをはじめてみたいと思われたら、ぜひご連絡ください。



(06-6339-1210)



ボラセン担当水田です

各市区町村会場からZOOMによるオンライン開催され、吹田市からは井本会長・北嶋副会長が出席。井本会長が議長に選出され、議事に入りました。報告事項の事業・収支決算・監査各報告・役員改選による新役員紹介は異議なしの声とともに承認されました。

大阪府市町村ボランティア連絡会総会

5月26日(水)

つづいて決議事項の事業計画・収支予算についても異議なしの声と共に承認されました。議長の丁寧な議事進行でスムーズに総会が終了しました。府市町村ボラ連設立25周年をむかえ、11月頃に周年記念事業を予定されています。詳細が決まれば積極的に協力したいと思えます。今年度のボランティア全国フォーラム2021は10月30・31日、オンライン開催となりより多くの参加が期待されます。



議長は緊張するナァ

吹田からも是非参加しよう！新たな人との出会い、新たな情報との出会いがきっとあるでしょう！

頑張っています！ボランティア 最終回

あめんぼ (福島加代子)

あめんぼは、平成5年に創設されたグループです。私たちは「様々な人との出会いや会員相互の繋がり」を大切にしています。

主な訪問先は学童保育やデイサービスなどです。そこでは、大型紙芝居や絵本の読み聞かせを通して、利用者様と楽しい時間を過ごしています。このような活動を継続していることが評価され、令和元年には厚生労働大臣賞をいただきました。

コロナ禍でも感染対策をしっかりと行いながら、学童訪問を継続することができました。

一人でも多くの方が、楽しく笑顔で過ごしてもらいたい。その手助けには、まだまだ人が足りません。ぜひ、私たちと一緒に活動してみませんか。

点訳グループ「あい」 (田窪知子)

市の点字講習会を修了された方々により『点字の普及・啓発』を理念とし、1973年に設立され、2年後に50周年を迎えるという歴史ある点訳グループです。

総合福祉会館の談話室には、心を込めて製作した手打ちの本や各種情報誌などがずらりと並んでいるのをお気付きの方もいらっしゃるかも知れません。その他大阪北視覚支援学校へ新聞の抜粋記事を届けたり、カレンダーやプライベート依頼の点訳をしています。

自宅でできる強みを活かしサピエ(視覚障がい者が利用できるネットサービス)の蔵書製作、市内小中学校の福祉教育に携わり障がいのある方への理解を深めてもらう取組をしています。コロナ禍の今、全員揃っての例会はできず人数を制限して勉強会を兼ねた集まりになっています。

NPO法人 SA子ども活動塾 (熊田真也)

今年度理事長に就任しました。現在会員数は20名です。理事長としては活動が活発に行えるようにするのが主な仕事です。



子どもさんが作ったエコバンドの花瓶

しかし、去年はコロナの影響でイベントがなく、活動できませんでした。今年も6件の助成金を受けることができましたが、コロナが終息しないといろいろな活動ができません。例年は、夏休みのおもちゃカーニバル、ロボット祭りを実施しています。

早くコロナワクチンの接種が終わり、異種株コロナの感染が無くなることを祈るばかりです。

今年度もまん延防止等重点措置期間中により、総会を书面決議としました。平時の総会では、吹田市社会福祉協議会(以下吹社協)会長、局長他に臨席賜り、ボラ連との強い絆についてお言葉をいただくのですが、今年もその機会がありませんでした。が、ボラ連はいつも吹社協ボランティアセンター(以下ボラセン)に活動を支えられており、ボラ連はボラセンから依頼された活動に協力させていただくという相互関係に揺るぎはないと信じています。さて、書面表決書が26グループのうち21通届きました。反対0で承認されました。

吹田市ボランティア連絡会 令和3年度総会書面決議

4月30日(金)

今年度活動計画に関するアンケートでの各グループからの回答に基づき、役員会にて検討し次のように決定しました。①講座は千里山西地域包括支援センターの協力で「認知症の初期発見、対処、公的支援などについて」。②管外バス研修は「ごみの焼却施設と粗大ごみの破砕施設を併設した「大阪市・八尾市・松原市環境施設組合舞洲工場見学」。

親睦交流会の企画についてはもう少し練らせていただきます。たくさんのご意見ありがとうございます。事業計画にあるすいたフエスタ(9月5日開催)の協力については、実行委員会より協力依頼が来ていましたが、残念ながら中止となりました。

点訳の会「円」 (北嶋玉枝)

『旬は命』

PC・スマホの普及により、点字離れが進む現在ですが、日常生活に必要な身近な情報や長編蔵書の点訳依頼は途絶えません。

飛び交う情報化時代の中で取り残されているのが凸起文字情報です。凸起文字とは触れて読む点字。をより早くより読みやすく点字化提供しています。



当会では視覚障がい者6人が、校正、会の運営、社協主催の福祉教育に積極的に参加、ともに活動しているバリアフリーグル

セラピー点訳の会 (西野万利子)

平成15年に全病理から独立して、セラピー点訳の会として発足しました。当時は主に医療や健康に関する点訳をしていました。現在は図書館で点字図書の作成をしています。毎月第1・3土曜日に活動、全員で本の内容についての勉強会をしています。本によってはメンバーで分担して、より正確に、より早く届けられるようがんばっています。

社協が発行している「こどもすいた社協だより」年2回点訳作成しています。1年1回他のグループとの交流をし、「ボランティアと点字利用者との交流会」を開き多くの意見や、いろいろな提案をいただきニーズに対応しています。

点字の始めは、点字盤と点筆で手打ちをしていましたが、現在はパソコンを使って多くの方の要望に応えられるようになり、今まで以上に多くの人に喜んで読んでいただければ幸いです。

朗読工房 (大橋文江)

25年前になります。物語や詩など、声に出して読む楽しさを広めようと「朗読工房」を立ち上げました。それから今日までに「心に届く朗読を」を合言葉に会員の皆さんと活動を続けてきました。自分自身が楽しむだけでなく、絵本の読み語りや紙芝居、朗読を通して、聴いてくださる方たちにも楽しんで頂きたいと市内のさまざまな会場に向かっています。小学校へは3校、朝の読み語りに行っています。図書館や児童センターでは手遊びや紙芝居を楽しんで頂いたり、また高齢者施設へも7か所定期的に出向き、百人一首を皆で詠んだり、聴いてもらうだけでなく施設の方と一緒に朗読を楽しんでいます。現在30名のボランティアメンバーで毎月お稽古に励んでいます。今年9月12日に朗読工房25周年記念朗読祭「言葉紡いで四半世紀」をメイシアターで企画しています。是非お越しくださいませ！